

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
|---------------|---------------|------------------------------------|------|-----|
| 27 - 83 | 高等学校 | 家庭 | 家庭基礎 | |
| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 183第一 | 家基320 | 高等学校 新版 家庭基礎 - とともに生きる・持続可能な未来をつくる | | |

1. 編修の趣旨及び留意点

1. 総合的な「生きる力」の習得

社会の基盤は私たちの生活であり、環境にやさしく持続可能で、豊かで平和な社会を維持していくことは、私たち一人ひとりがどのように生活を営んでいくにかかっていることを知り、自分の一生をどうやって生きていくか、どのような暮らしを営んでいくかに目を向けさせ、総合的な視点で自分自身の生活を選択・創造できる力を養うことをめざした。そのために、生き方の基礎・基本(原理・原則)に主眼を置きつつも、自分自身の生活に応用・発展させるためのヒントを豊富に盛り込み、「自分の生活をつくる」ことのできる教科書づくりを徹底した。また、ともに生きる社会の一員として、各ライフステージを通じて、人と人のかかわりあいの大切さを自覚しつつ、生活の主体者として生活を創造する力や、適切な意思決定能力が身につくよう留意した。

2. 最新の生活情報・資料を幅広く導入

家庭科は総合的な学問であることを認識させ、家庭科学習の楽しさを伝えることに留意した。そのために、科学の発展が暮らしを変えていく現実を踏まえ、科学的な視点をはぐくむだけでなく、経済や法律、数学など、生活にかかわるあらゆる学問との関連を意識させるきっかけとなるよう、資料選定や紙面構成に工夫を凝らした。また、実生活に活用できる基礎的・基本的な知識・技能が習得できるようにすること、そして、日常生活のなかでの課題に気付き、改善し、実践していくことによって、習得した知識・技能を生かすことができるよう工夫した。

3. 一生手元に残しておける教科書

これからの人生を、自分らしくデザインしていくための拠り所となる教科書をめざした。そのために、生き方の基本として普遍的な内容を選びすぐり、学術的に確かな記述を心がけた。

2. 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示す教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

章扉に、各章の内容に関連する「写真特集」を取り入れ、家庭科学習への興味・関心を喚起するよう工夫した。

各節の冒頭に「学習のねらい」を端的に示すとともに、1つの学習項目を見開き構成でまとめ、学習の要点を把握しやすくすることで、個人が自主的にその能力を伸ばすことができるよう配慮した。

幅広い知識と教養を身につけさせるため、本文はできるだけ具体例を示しながら丁寧に述べ、基本的な用語や重要語句については、側注を付して理解しやすくした。本文の理解を助ける図・表・写真も豊富に取り入れ、本文と図・表・写真との対応関係をわかりやすくするため、該当する図番号を本文中に示した。随所に「ワーク」を設け、学習の導入となるよう配慮するとともに、より深い理解と多角的な考察を促すよう工夫した。

「実習」に重点をおき、創造性の育成をめざした。「実習」では、実生活に活用することができるよう生活に役立つ題材を選ぶとともに、イラストと説明文を一体化した形で展開し、理解しやすくした。

「コラム」を設け、本文内容の理解につながる話題性のある内容を扱うことにより、幅広い知識と教養を身につけさせるとともに、学習への興味・関心を喚起するよう留意した。

章末に「テーマ学習」を設け、各章の内容に関連する課題を例示することで、課題に気付き、改善し、実践していく力を身につけるとともに、主体的に社会の形成に参画しその発展に寄与する態度や、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう留意した。

3. 対照表

| 図書の内容 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|----------------------------|--|---|
| <p>第1章 これからの生き方と家族</p> | <p>これからの生活をつくるうえで、生活の依存者から主体者になることを学び、配偶者をもつことや次世代をはぐくむことについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。</p> <p>青年期の課題としての職業選択、家事労働と職業労働の意義と特徴などを扱い、職業観・勤労観が身につくよう配慮した(第2号)。</p> <p>男女が協力して社会を支えることの大切さについて取り扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫した(第3号)。</p> <p>家族・家庭の抱えるさまざまな問題を取り上げ、家族の破綻を防止するためのさまざまな手立てや法律を学び、生命を尊ぶ態度を養うことができるようにした(第4号)。</p> <p>北欧諸国の男女の協力の事例を紹介し、他国を尊重する態度を養えるよう留意した(第5号)。</p> | <p>p.6~7, p.18~19</p> <p>p.8~11</p> <p>p.12~13</p> <p>p.14~17, p.20~23</p> <p>p.24~25</p> |
| <p>第2章 次世代をはぐくむ</p> | <p>親になることや、子育てを社会全体で支えていくことについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。</p> <p>社会全体で子どもを育てていくための、国や行政によるさまざまな取り組みを紹介し、自らも職業生活と子育てを含む家庭生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮した(第2号)。</p> <p>男女がともに子育てにかかわっていくには、妊娠中からの意識改革も必要であり、女性まかせにせず、男女が協力して子育てを担うことの大切さが伝わるような記述を工夫した(第3号)。</p> <p>子どもの心身両面での発育・発達の特徴や、親の役割、乳幼児期の健康や安全を守るためにどのような配慮が必要かなどを学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意した(第4号)。</p> <p>世界に目を向けて、過酷な環境で生きる子どもたちの事例を紹介し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した(第5号)</p> | <p>p.28~29</p> <p>p.44~45</p> <p>p.30~31, p.48~49</p> <p>p.32~43</p> <p>p.46~47</p> |
| <p>第3章 充実した生涯へ</p> | <p>高齢社会の現状と課題について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。</p> <p>高齢期の生活を支えるための、国や行政によるさまざまな取り組みを紹介し、自らも職業生活と家族の介護を含む家庭生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮した(第2号)。</p> <p>今の高齢者の生き方を知り、理解を深めることで、高齢者に対する敬愛と支援・協力を重んずる態度を養うことができるよう留意した(第3号)。</p> <p>高齢者の介護にはどのような配慮が必要かを学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意した(第4号)。</p> <p>日本が世界有数の長寿国であることを知り、我が国と郷土を愛する態度につながるよう留意した(第5号)。</p> | <p>p.58~59</p> <p>p.60~61</p> <p>p.52~57</p> <p>p.62~63</p> <p>p.64~65</p> |
| <p>第4章 ともに生きる</p> | <p>社会保障制度のしくみについて、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した(第1号)。</p> <p>世代をこえた社会的な助け合いが社会保障制度の基盤であることを学び、これからの社会の担い手として、自主及び自立の精神を養うことができるよう配慮した(第2号)。</p> | <p>p.68~73</p> |

| | | |
|------------|--|---|
| | <p>ともに支え合う社会の実現に向けての活動・交流について、本文と具体的な事例をあげて取り扱った（第3号）。</p> <p>地域社会とのつながりをもてなくなった社会的に弱い立場にある人に対してどのような配慮が必要かを学ぶことで、生命を尊ぶ態度を養えるよう留意した（第4号）。</p> <p>ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョン、ユニバーサルデザインなどの諸外国で生まれた考え方が我が国でも根付いてきていることを知り、他国を尊重する態度につながるよう留意した（第5号）。</p> | |
| 第5章 食べる | <p>食生活をめぐる課題を取り上げ、毎日の食事が健やかな身体づくりと深く関わっていること、特に、青年期の食事の重要性が実感できるよう配慮した（第1号）。</p> <p>実習を通して、自らの生活を創造する力を培うとともに、男女がともに生活力を高め、家庭生活と職業生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮した（第2号）。</p> <p>自分たちの食生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>食生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、事例をあげながら具体的に扱った（第4号）。</p> <p>世界無形文化遺産に登録された和食や、行事食、郷土料理などを取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第5号）。</p> | <p>p.76～99</p> <p>p.100～123</p> <p>p.82～83</p> <p>p.82～83， p.124～125</p> <p>p.75，77</p> |
| 第6章 装う | <p>被服材料や被服の管理方法について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した。また、衣生活をめぐる課題を取り上げ、被服の着方が健やかな身体づくりと深く関わっていることを実感できるよう配慮した（第1号）。</p> <p>自らの生活を創造する力を培うとともに、男女がともに生活力を高め、家庭生活と職業生活をバランスよく両立していく意欲を高めることができるよう配慮した（第2号）。</p> <p>自分たちの衣生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>衣生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、事例をあげながら具体的に扱った（第4号）。</p> <p>浴衣の着方などを紹介することで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第5号）。</p> | <p>p.128～130， p.132～143</p> <p>後見返し</p> <p>p.144～147</p> <p>p.144～147</p> <p>p.131</p> |
| 第7章 住まう | <p>生涯を見通した住まいの工夫について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した。また、住生活をめぐる課題を取り上げ、住まいの維持管理が健やかな身体づくりと深く関わっていることが実感できるよう配慮した（第1号）。</p> <p>平面図の読み取りや、室内計画を通して、自らの生活を創造する力を培うことができるよう配慮した（第2号）。</p> <p>自分たちの住生活の営み方が、社会に与える影響について学び、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう留意した（第3号）。</p> <p>住生活の面から、環境に配慮した生活のあり方を学び、課題解決に向けて主体的に実践できるよう、事例をあげながら具体的に扱った（第4号）。</p> | <p>p.154～155， p.158～163， p.166～167</p> <p>p.152～153</p> <p>p.164～165</p> <p>p.156～157</p> |

| | | |
|-------------------------------|--|---|
| | <p>地域特有の伝統的な住まいの例と、その気候・風土に応じた工夫について取り上げることで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう留意した（第5号）。</p> | p.150～151 |
| <p>第8章 経済生活を営む</p> | <p>私たちの暮らしと経済とのかかわりや、持続可能な年金制度について、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な考察ができるよう配慮した（第1号）。</p> <p>消費者問題の発生過程やトラブルへの対処法を学び、自立した消費者として、自主及び自立の精神を養うことができるよう配慮した（第2号）。</p> <p>消費者としての権利が保障される一方で、消費者としての責任を負う必要が生じることを学び、社会に対して果たすべき責任を自覚させるよう考慮した（第3号）。</p> <p>持続可能な社会をめざして、資源や環境に配慮した生活を営むことができるよう、消費行動を見直し、主体的に行動することの大切さを示した（第4号）。</p> <p>発展途上国の労働者が貧困から抜け出すための取り組み事例を紹介し、消費行動を通して国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう留意した（第5号）</p> | <p>p.170～175、 p.188～189</p> <p>p.176～183</p> <p>p.182～183</p> <p>p.184～187</p> <p>p.187</p> |
| <p>第9章 生活をデザインしよう</p> | <p>これからの生活を考えるにあたって、再度、職業選択やワーク・ライフ・バランスについて取り扱い、勤労を重んずる態度を養うことができるよう配慮した。また、生活設計を通して、自らの生活を創造する力を培うことができるよう配慮した（第2号）。</p> <p>生活をしていくうえでは、人と人との関係が大切であり、男女の協力、高齢者に対する敬愛と支援・協力などについても再確認できるようにした（第3号）。</p> <p>人が快適な生活を送るために自然を破壊していることについても再認識できるようにした（第4号）。</p> | p.190～193 |
| <p>第10章 生活の充実・向上をめざして</p> | <p>家庭科で学んできた生活に必要な幅広い知識や教養を、生活に生かして実践することによって、生きる力として身につけていくことの重要性を再認識できるようにした（第1号）。</p> <p>伝統和菓子を題材に、校内活動や地域活動をおこなった事例を取り上げ、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。</p> | p.194～199 |

4．上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の規定を踏まえ、私たちの暮らす社会や生活は、さまざまな法律によって成り立っていることが実感できるよう、巻末資料として「暮らしとかかわる法律」を紹介した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

| | | | | |
|---------------|---------------|------------------------------------|------|-----|
| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 27 - 83 | 高等学校 | 家庭 | 家庭基礎 | |
| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教 科 書 名 | | |
| 183第一 | 家基320 | 高等学校 新版 家庭基礎 - とともに生きる・持続可能な未来をつくる | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

1. 生涯を見通し、生活の主体者として、自らの生活を創造していく視点を重視した。
 - ・青年期は自立の視点、壮年期は次世代を生み育てる世代としての視点を重視した記述を取り入れた。ライフスタイルの多様化にも配慮した記述とした。
 - ・高齢期は、やがて自分が迎えるライフステージとしての視点で扱った。その際、充実した高齢期を過ごしている人の事例を豊富に示し、老いにマイナスイメージをいだかないよう配慮した。
2. 習得した知識や技術を、日常生活上の意思決定や問題解決に生かすことができるよう配慮した。
 - ・青年期の生活の自立をめざすうえでの意思決定、家庭の経済計画とリスク管理、消費者としての意思決定、生活設計の立案などあらゆる場面で、適切な意思決定の必要性と、自己の意思決定に対して責任をもつことの重要性を扱った。
3. 生活に必要な知識と技術を習得させることができる展開とした。
 - ・子どもとのかかわり、高齢者とのかかわりなどについて実際の取り組み例をあげ、体験的な学習をとおして、具体的な知識と技術を習得させるよう配慮した。
 - ・献立の作成、ズボンのすそあげなど、実践的な学習をとおして、生活を営むために必要な知識と技術を習得させるよう配慮した。
4. 言語活動を充実させた。
 - ・章末に「テーマ学習」を設け、課題例とその追究方法を会話形式で例示することで、日常生活の課題について、主体的に取り組む意欲を高めるよう配慮した。
 - ・情報収集、話し合い、調査、文章による結果のまとめ、発表などの課題例を示し、さまざまな言語活動に取り組めるよう配慮した。
5. 課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむことができるよう配慮した。
 - ・「生活の充実・向上をめざして」として、家庭科で学習した知識や技術を生かして、日常生活のなかでの課題に気付き、改善し、実践していく方法を、具体的な実践例をあげて示した。
 - ・「ホームプロジェクト」と「学校家庭クラブ活動」の実践テーマ例を豊富に取り上げることで、それらを参考にしながら、自らの課題を見いだすきっかけとなるよう配慮した。

2. 対照表

| 図書の構成・内容 | 学習指導要領の内容 | 該当箇所 | 配当 時数 |
|----------------------------|-----------|---------|----------|
| 1章1節 自分らしい人生とは | | p.6~7 | 2 |
| 青年期の課題 | | p.8~9 | |
| ワーク・ライフ・バランス | | p.10~11 | |
| 男女の平等と相互の協力 | | p.12~13 | |
| 1章2節 家族とは? 家庭とは? | (1)-ア-(イ) | p.14~15 | 2 |
| 家族・家庭の働き | p.16~17 | | |
| これからの生活をつくる | p.18~19 | | |
| 家族に関する法律 | p.20~23 | | |
| テーマ学習 北欧の例を参考に私たちの暮らしを考えよう | (1)-ア-(ア) | p.24~25 | 1 |

| | | | | |
|-------|--------------------------|---------------|-----------|----|
| 2章1節 | 次世代をはぐくむ | | p.28～29 | 3 |
| | 命のはじまり | | p.30～31 | |
| | 子どもの体の発育・発達 | | p.32～35 | |
| | 子どもの心の発達 | (1) - イ - (ア) | p.36～37 | |
| | 子どもと遊び | | p.38～39 | |
| 2章2節 | 親と子の関係 | | p.40～41 | 1 |
| | 乳幼児期の生活 | | p.42～43 | |
| 2章3節 | 子育て支援と地域社会とのかかわり | | p.44～45 | 1 |
| | 子どもの権利と福祉 | (1) - イ - (イ) | p.46～47 | |
| テーマ学習 | 子どもとのかかわりを考えよう | (1) - イ - (ア) | p.48～49 | 1 |
| 3章1節 | 高齢期をどう生きるか | | p.52～53 | 2 |
| | 高齢期の生きがいと就労・社会参加 | (1) - ウ - (ア) | p.54～55 | |
| | 高齢者を知る | | p.56～57 | |
| 3章2節 | 高齢社会の現状と課題 | | p.58～59 | 2 |
| | 高齢者やその家族の支援システム | | p.60～61 | |
| | 高齢者の尊厳を支える | (1) - ウ - (イ) | p.62～63 | |
| テーマ学習 | 50年後のあなたのセカンドライフをデザインしよう | | p.64～65 | 1 |
| 4章 | 社会保障制度と福祉 | (1) - エ - (ア) | p.68～69 | 1 |
| | ともに生きる社会をめざして | | p.70～71 | |
| テーマ学習 | 福祉のまちづくりについて考えよう | (1) - エ - (イ) | p.72～73 | 1 |
| 5章1節 | 私たちと食事 | | p.76～77 | 2 |
| | 食べることと健康 | | p.78～79 | |
| | 食生活の変化 | | p.80～81 | |
| | 食生活をとりまく環境の変化 | | p.82～83 | |
| 5章2節 | 人体と栄養 | (2) - ア - (ア) | p.84～85 | 3 |
| | 栄養素の種類と性質 | | p.86～93 | |
| | 加工食品・健康増進のための食品 | | p.94～95 | |
| 5章3節 | 食生活の安全と衛生 | | p.96～97 | 1 |
| | 食品の選択と保存 | | p.98～99 | |
| 5章4節 | 栄養バランスのよい食事 | | p.100～101 | 2 |
| | ライフステージと食事 | | p.102～105 | |
| | 献立作成の手順 | (2) - ア - (イ) | p.106～107 | |
| | 調理の基本 | | p.108～113 | |
| 調理実習 | | | p.114～123 | 10 |
| テーマ学習 | 環境に配慮した食生活を考えよう | (2) - ア - (ア) | p.124～125 | 1 |
| 6章1節 | 人と被服 | | p.128～129 | 2 |
| | 多様な被服 | | p.130～131 | |
| | 被服の選び方 | (2) - イ - (ア) | p.132～133 | |
| | 被服のなりたちと着方 | | p.134～135 | |

| | | | | |
|-------|---------------------|---------------|-----------|----|
| 6章2節 | 被服材料の種類と特徴 | | p.136～137 | |
| | 衣料用繊維 | | p.138～139 | |
| | 被服の手入れと保管 | (2) - イ - (イ) | p.140～141 | 2 |
| | 洗濯のしくみ | | p.142～143 | |
| | 衣生活と資源・環境 | | p.144～145 | |
| テーマ学習 | 環境に配慮した衣生活を考えよう | | p.146～147 | |
| 7章1節 | 人と住まい | (2) - ウ - (ア) | p.150～151 | 2 |
| | 平面図の活用 | | p.152～153 | |
| | ライフステージと住まい | | p.154～155 | |
| | これからの住生活 | | p.156～157 | |
| 7章2節 | 快適で健康な住まい | (2) - ウ - (イ) | p.158～159 | 2 |
| | 住まいの安心・安全 | | p.160～161 | |
| | 住まいの維持管理 | | p.162～163 | |
| | 日本の住宅事情と住宅政策 | | p.164～165 | |
| テーマ学習 | 健康・快適な住生活を考えよう | | p.166～167 | 1 |
| 8章1節 | 経済生活の中身を知る | (2) - エ - (イ) | p.170～171 | 2 |
| | 家庭生活と社会とのかかわりを知る | | p.172～173 | |
| | 将来の経済生活を考える | | p.174～175 | |
| 8章2節 | 消費者問題はなぜ起こるのか | (2) - エ - (ア) | p.176～177 | 2 |
| | 契約トラブルとその対策 | | p.178～179 | |
| | クレジット利用のリスク | | p.180～181 | |
| | 消費者の自立と行政の支援 | | p.182～183 | |
| 8章3節 | 消費生活と環境問題 | (2) - オ - (ア) | p.184～185 | 1 |
| | 私たちに何ができるのか | (2) - オ - (イ) | p.186～187 | |
| テーマ学習 | 年金制度について考えよう | (2) - エ - (イ) | p.188～189 | 1 |
| 9章 | これからの生活を考える | (2) - カ | p.190～191 | 1 |
| | 自分の一生を自分らしく生きるために | | p.192～193 | 1 |
| 10章 | ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 | (3) | p.194～195 | 1 |
| | ホームプロジェクトの実践例 | | p.196～197 | 4 |
| | 学校家庭クラブ活動の実践例 | | p.198～199 | 4 |
| | | | 計 | 64 |